

静岡県初の配電線による電灯供給 熱海発電所

- 住所
熱海市福道町8番地
- 交通アクセス
JR 来宮駅 約800m

■静岡県初の配電線による電灯供給

明治28年(1895)10月20日、熱海電気燈会社は、初川の熱海町字谷戸685番地(現・熱海市福道町8番地)に建設した熱海発電所から熱海町の旅館街に、静岡県初の配電線による電灯供給(180灯)を始めました。

これは、東京・日本橋における日本初の電灯供給開始から8年後、全国で8番目の水力による電灯供給の開始でした。

開業時は国府津村の杉山仲次郎の出資による個人経営でしたが、翌年の6月には富士屋旅館、さがみや旅館、山田屋など有力旅館が出資して株式会社組織の熱海電燈株式会社になりました。

■当時の地図での場所

当時の地図がなく、図1は発電所が建設される9年前の明治19年(1886)の大日本帝国陸地測量部の2万分の1地形図です。

注、その後の大正5年の地図でも、当該地はほとんど変わっていません。

発電所の位置は「熱海発電所」と追記した赤丸枠、取水口は赤丸点のところです。

赤丸枠右下の三角形の地形は、丸山と呼ばれる小高い山です。初川は、この山で流れを変え山間から里へ下っています。発電所は、この流れが変化する地形と落差を巧に利用し、設置されていたことが想定されます。

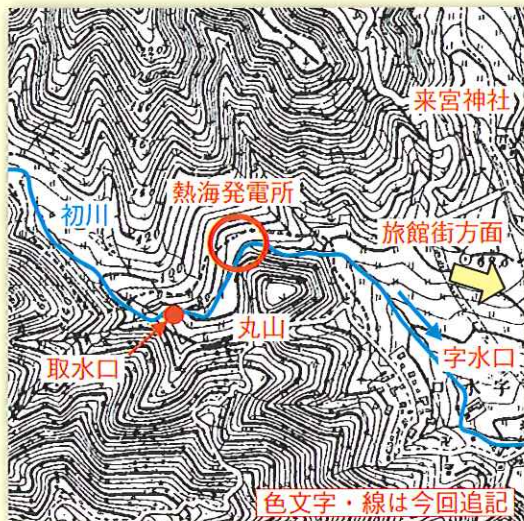


図1 明治19年の地形図(大日本帝国陸地測量部) 国土地理院旧版地図(熱海村)使用



写真1 熱海発電所

山斜面を高く張り出した木組みの水路が、取水口方向から延びてきており、落差をつけて発電所へ落とすという特異な形態になっています。
(出典 電気之友108号 M33.7) 国立国会図書館蔵

■現在の状況

明治19年の地図(図1)を参考に、現在の地図(図2)において熱海発電所の位置を追うと、JR東海道線やJR伊東線が走り、又、多くの道路が新たに造られています。初川の流れと丸山などに注目することで、赤丸枠のところになります。

ここは、JR東海道線の丹那トンネルの東側坑口部です。同トンネル(7,808m)は、大正7年(1918)着工、湧水に悩まされての難工事でしたが、昭和8年(1933)に竣工しています。

現地を訪ねたところ、同トンネル坑口上は広場になっており、その一角に「熱海水力発電所跡碑」「熱海水力発電所由来記碑」などがありました。



図2 現在の地図 国土地理院2万5千分の1地形図使用

また、反対側（坑口真上）には、トンネル工事の犠牲者67名の殉職者慰霊碑がありました。



写真2 熱海発電所跡碑と由来記碑

発電所跡碑は昭和47年（1972）、由来記碑は平成6年（1994）、説明図は平成9年（1997）、いずれも熱海電気協議会によって建立され、御影石の由来記碑には、次のような文が刻まれていました。

「熱海発電所由来記」

明治28年10月20日送電

日本で8番目の発電所

名称 熱海電燈株式会社

持主 国府津村 杉山仲次郎

場所 熱海町字谷戸685番地

出力 30馬力（22kW）

電圧 1千Vを百Vに変圧

電灯数 300灯（但し16燭光）

熱海の旅館、民家に送電した

平成6年4月吉日

熱海電気協議会 会長 内藤弘

次に、当時の写真（写真1）と同じアングルの写真を撮るため地点探しをしました。東海道線、新幹線、変電所などが新たに造られていて、ベストポジションに近づくことが出来ませんでした。ほぼ同じアングルの写真3を撮ることができました。



写真3 当時（写真1）と同アングルの写真

又、取水口があった熱海梅園入口前の梅園橋付近にも行ってみました。当時を偲ぶ遺構などは見当たりませんでした。（写真4参照）



写真4 取水口があった辺り
梅園橋から上流を撮影。初川の流れは急でしたが、水量は多くありませんでした。

■発電所と線路の概要

前述の「熱海発電所由来記碑」に大要が記されていますが、補足すると次のとおりです。

- ・発電所は、熱海の旅館街への距離が1.1kmと近く、地点に恵まれていた
- ・発電用水は、初川の取水部（現在の梅園橋辺り）より160間（291m）を木樋で導き、落差73尺（22m）を鋼管で水車に落水
- ・水車 レッフェル形横置12インチ（30cm）、30馬力、三吉電機工場製
- ・発電機 単相交流1kV、15kW、三吉電機工場製
- ・線路、水田の中を電柱34本により送電。電線は高圧用ゴム電線と、低圧用被覆銅線（東京線）
- ・変圧器 1,000/100V 鉄箱入り



図3 豆州熱海全図に描かれた発電所（明治32年）
左上の発電所から中央部に、電線と電柱が描かれています。
熱海市立図書館所蔵

■発電所のその後

15kWの容量ではとうてい熱海の需要をまかなうことができず、発電所位置を変えての容量アップも検討されましたが、結局、明治34年（1901）に三島の駿豆電気株式会社を買収されました。

その後、明治36年（1903）1月、三島に平井発電所が、また、同年3月に熱海に変電所が建設され供給体制が整うと、熱海水力発電所は廃止されました。同発電所による旅館街への電気供給は、9年間という短い期間でした。